

神楽名

かみ た ばる 上田原神楽

伝承地

上田原地区
高千穂町大字田原

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

上田原神楽保存会
代表 河内 文男



柴荒神

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の^{かみの たばる}上野・田原系統に属する神楽である。上田原地区は、戦国時代に山城が築かれた^{げん}玄武山をはじめとする小高い^{けんそ}険阻な山々が連なる麓に位置する集落である。

氏神社の熊野神社は1242年、^{にんじ}仁治3年に紀州熊野から勧請した神社で、古くは熊野三社権現と称されている。境内地には別当寺正膳寺跡薬師堂があり、鎌倉期の作である薬師如来坐像が安置されている。薬師堂を守護する仁王像は天保六年(1835)、^{まいの いしく りきち}延岡舞野の石工の利吉の作である。

上田原神楽のはじまりについては定かではないが、集落内の墓地に明治33年(1900)7月22日に往生した^{かぐら だいがんぼうり}神楽大願祝子・内倉弥太郎の墓がある。その後、昭和30年頃に一時途絶えたが、昭和48年に保存会を再結成し、下田原神楽を習い、昭和51年2月に夜神楽を復活している。夜神楽は11の小組廻しの当番制で実施されている。

◆ 芸能の機会・場所

- 上田原夜神楽... 2月10日前の土・日曜日、熊野神社にて神事後、神楽宿である公民館にて奉納
- 春祭り、秋祭り、^{さいたんさい}歳旦祭に「^{しきさんばん}式三番」などを奉納

◆ 演目一覧

宮神事	^{ごしんこう みちかぐら} 御神幸・道神楽	舞込み	^{みこうや} 御光屋	^{ひこまい} 彦舞	^{たいどの} 太殿
^{かみおろ} 神降し	鎮守	^{すぎのぼり} 杉登	^{そではな} 袖花	^{じがため} 地固	^{へいかなぜ} 幣神添
^{おきえ} 沖逢	^{たちかんぜ} 太刀神添	住吉	^{ひまえ} 火の前	^{よにんぶち} 四人武智	^{やまもり} 山森
^{しばこうじん} 柴荒神	^{ゆみしょうご} 弓正護	^{じわり} 地割	五穀	^{きねまい ごしんたい} 杵舞・御神体	^{ほんはな} 本花
^{いわくぐ} 岩潜り	^{しちきじん} 七鬼神	^{ぶちかんぜ} 武智神添	^{やつぱち} 八鉢	^{だいじん} 大神	柴引き
伊勢神楽	^{たちからお} 手力男	^{うずめ} 鈿女	戸取り	^{まいびらき} 舞開	^{しめひ} 注連引き
^{くもおろ} 雲降し					

※平成27年2月の神楽奉納番付に基づく

◆ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。「地固」は耕地を讃え、水徳剣としての太刀の呪力により耕地を護り、悪魔を祓う国土安泰祈願の神楽といわれ、太刀を抜いての舞が中心となる。舞の終了後、御神屋中央に太鼓を置き、抜き身の刀をその上に立てる「地固」特有の神事がある。この神事は、上野・田原地区で多く伝承がみられる。演目の最後には、水徳を授ける儀式「宝渡し」が行われる。

岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引き」「伊勢神楽」「手力男」「鈿女」「戸取り」「舞開」の六番）は夜明けに奉納され、最後に「注連引き」「雲降し」で神を送って終了する。

◆ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、地割、杵舞、御神体、手力男、鈿女、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯、杵 等
- 文書... 「舞の手すじ」(昭和50年)、「上田原神楽の歩み」(昭和51年)等が保管されている

◆ 伝承の現状・課題

近年は他の地区の神楽も取り入れ、三十三番の舞とともに、神楽唱教も暗唱して奉納されている。会員数は44名で、16名が小・中・高校生で構成されている。集落内の男子児童は、小学校入学とともに保存会に入り、土曜・日曜日を中心に練習をする。高校生、青年祝子者が小中学生に教え、夜神楽では番付の半数近くが児童・生徒により奉納されている。



彦舞



地固



手力男